

社会福祉法人 友愛十字会

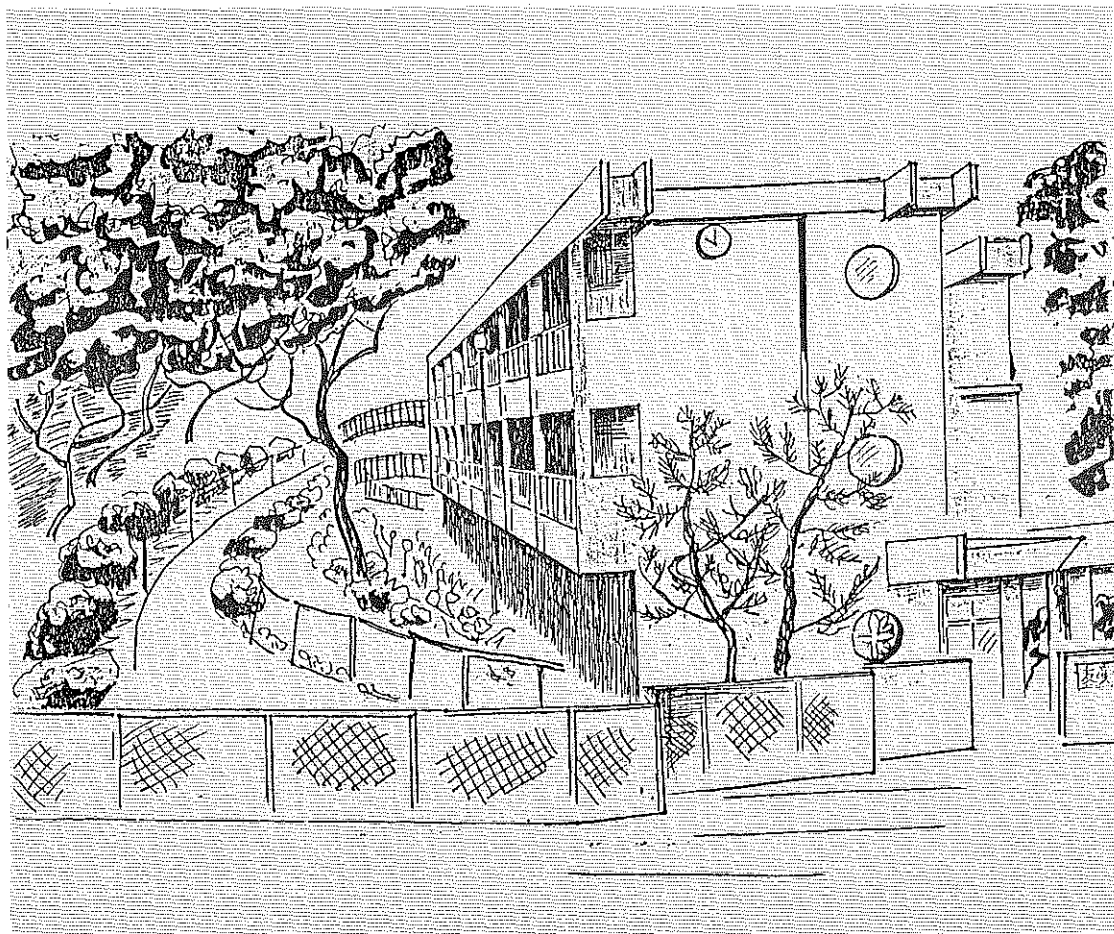
ゆうあい

1986

1・10

No. 3

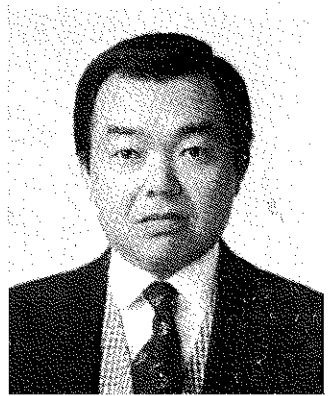
題字 前総裁 三笠宮崇仁親王殿下



特別養護老人ホーム 友愛荘

主な記事

- ゆうあい第3号に寄せて 総裁 三笠宮寛仁親王殿下
- 友愛十字会の事業紹介 身体障害者更生援護のための啓蒙普及事業について
- 山中湖畔のキャンプ 世田谷更生館
- 利用者のコミュニケーション 東京都ろうあ者更生寮
- 入所者寸描 —ある老人の歩み— 友愛荘
- 写真グラビア



第三号に寄せて

社会福祉法人 友愛十字会

総裁 寛仁親王

皆様明けましておめでとうございます。多少、私を含めて編集部の手違いにより発刊が遅れました事をお詫び致します。

新年の感想という程の事ありませんが、これからの福祉がどうあるべきだろうかという事を少し書いてみたいと思います。

第一には、常日頃私が主張している『部門別に障害を考える』という事です。行政上、障害を持つ人々を健常者と分けて考えざるを得ないという事は私にもよくわかります。手帳の発行とか補助金の問題や、諸々の免除・特典の対象として、『障害者』という規定が出来てしまふのは致し方のない事かも知れません。しかし、我々民間で福祉活動をする者達は、この次元を越えた所で、個人個人を見直すべきだと思います。我々人間は目に見える障害と見えない障害を一人一人が山ほど持っていると思います。友愛十字会の入所者や通所者の諸君一人ずつを色々な角度からスクリーンを通して見れば、この部分は明らかに他の人に劣っているが、この部分は通常健常者と呼ばれている人々の誰よりも勝れているではないかという部門が必ずや有るはずで、元総裁であった父親を例にとると、彼は古代オリエント史の学究としては、日本を代表する人間であるそうです。又、水泳、馬術、アイスダンス、フォークダンス、社交ダンスといったスポーツ面でも勝れています。しかし、父親としては本人もよくいますが、『何もうまく出来なかった』事は長男の私が証明出来ますし、家庭内の細かい事は全く関心がありません。音楽は種々トランはしているようですが、か

つてセミプロであった私から見ると、救い様がないという事になります。この様な日常我々の回りで起こりうる全てのことに自分を当てはめてみて自分は健常な部分はこことここで、障害の部分はこことこことだな……という風に考えていくと、単純に健常者だとか障害者という風に二つに分ける事が馬鹿馬鹿しくなってきました。寝たきりであつても頭脳が冴えている人、目が見えなくても研ぎ澄まされた感覚で点字を読める人、その延長線上に音楽や工芸の部分ですごい能力を持った人、下肢障害でも音楽でもスポーツでも仕事でも普通のサラリーマンの数段上を行く人……etc。私が知り得た国内外の障害を持つ人々は全員何かの面で、能力をもっています。ただ問題は、本人がそれを自覚していないとか、周囲で引き出してあげないとか、頭から諦めているとかがある為に、又部門別にみようじゃないかという発想がない為に、視、聴、肢……etcの障害を持っているだけで、障害者であり、健常者にとつていいるなどという発想が我国の福祉に根付いてしまったのだと思います。

昨年四国で精薄児の親の手をつなぐ会の四国大会に講演にいった折、重度精薄児の養護学校の校長から、生徒達の作った陶芸品（菓子皿）をおみやげに貰いました。私はすぐにその道の専門家である、我が妃殿下に製作者の事を言わずに鑑定してもらいました。その結果、①座り具合悪い②もっと多く色を作る事③5枚一組でなく6枚一組にする事という意見をもらったのですが伝達をしました。二ヶ月後には、いわれた通りの素晴らしい新しい6枚セットの色替りの座り具合のいい菓子皿が届きました。その養護学校に世に名高い陶芸家がいるわけでもなく、特別金のある学校でもなく、ごく普通の学校でありながら生徒達が、こういう事をしてくれた事に私は感銘を受け、私は、その6枚セットに三、五〇〇円の値をつけ買い上げました。現在そのセットは三五〇円で売られていると聞いたからです。私は三、五〇〇円の価値は充分あるからという事と、私以外の人達が当然三、五〇〇円の価値があると思つて買う様になる迄頑張れという意味をこめて支払ったわけです。

友愛十字会の事業紹介

身障者更生援護のための

啓蒙普及事業について

友愛十字会の事業は、身障及び老人福祉施設を経営する社会福祉法人であると思われがちですが、法人設立以来、本会においては身障者の更生援護のための啓蒙普及事業も重要な事業として位置づけられており、定款にも事業目的の一つとして明記されております。

本会の創設以来の事業の変遷については、前号でご紹介しましたが、その中にいくつかこの事業に相当するものが含まれております。これらの中で特筆すべきものとしては、昭和二十六年に始まった「身体障害者福祉展」に、本会も主催団体の一員として参画したことです。

この「身障福祉展」は、昭和二十六年四月に、身障福祉法施行一周年を記念して、厚生省の主催により東京都と、当時民間団体で身障福祉に関係の深かった日本赤十字社、鉄道弘済会と共に本会も加わった五団体の共催により、第一回福祉展を日本橋白木屋百貨店において開催された事業で、特に本会は、当時の職員挙げての大きな事業でありました。

以後、昭和五十年に「社会福祉機器展」とし

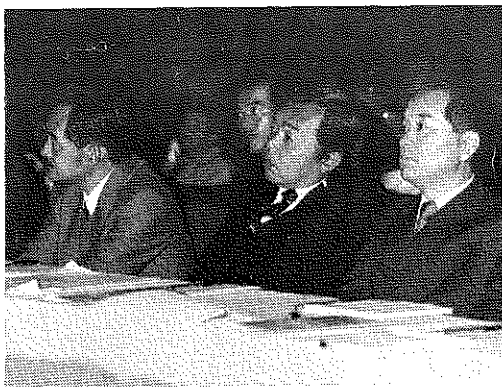
て統合再出発するまでの二十二年間、二十三年にわたり毎年東京都内の各デパートで開催された意義は大きく、わが国身障福祉発展史に遡る事業であり、本会としても法人の使命の一に込めることができた事業であったと思います。

翻って、今日本会が実施しているこの啓蒙普及事業と言えるものは、三つほど挙げることができます。これらの事業はいずれも本会の総裁であります三笠宮寛仁親王殿下のご発想になったものでありますが、現況を中心にこれからの事業の概要を紹介いたします。

その第一は、「全国心身障害者芸能コンクール（愛のステージ）の開催」です。

この事業は、全国の心身障害者に、芸能を通じて情緒と活力を与え、かつ障害者の隠れた才能を発掘し、併せて教養文化の助長を図ることを目的として、昭和五十年以来、財団法人日本チャリティ協会及び株式会社ニッポン放送と共催で本会が実施している事業です。内容としては、芸能部門のほか作詞・作曲・創作の部門があります。このコンクールの狙いの一つでもあります才能の発掘の例としては、毎年審査委員長を勤めておられます寛仁親王殿下を始め、

審査委員の神津善行、市川昭介両先生方の高い評価を受けた視力障害者である豊嶋光宏君がプロ歌手となり、実力で立派に成功しております。昨年の第十一次大会は、十月二十日に明治神宮会館において、約七百名の参加者を得て盛況裡に行われました。芸能部門で最優秀賞に輝いた東京光の家の「西沢清和とハニーレモン」（視力障害者）グループの器楽演奏に対し、寛仁親王殿下よりトロフィーが贈られました。



愛のステージにおける
審査員席の寛仁親王殿下

第二の事業は、「宮様チャリティボウリング大会」と、「身障者ボウリング大会」の開催です。

「宮様チャリティボウリング大会」は、現総裁寛仁親王殿下の御父宮であらせられる三笠宮崇仁親王殿下が総裁としてご在任中の昭和四十



愛のステージでの演奏風景

二年に、「三笠宮杯争奪チャリティボウリング大会」として、広く身障福祉の啓蒙普及を行う主旨のもとに、本会主催により実施された大会です。昭和五十八年の第十七回大会より大会名を現在の名称に変更し、また第一回大会以来主催者であった本会は唯一の協賛団体となり、主催を引継いだ社団法人日本ボウリング場協会に全面的に協力しております。

この大会の過程で、身障者に対する理解をより深め、また、身障者にボウリングをする機会と喜びを与えたいとの寛仁親王殿下のお呼びかけ

に应じて、昭和五十二年の第十一回大会からプロボラー（現在も第一線で活躍中の矢島純一、須田開代子、中山律子プロなど）の方々による「身障者ボウリングクリニク」が始められ、次いで昭和五十六年の第十五回大会からこのクリニクを、「身障者ボウリング大会」に発展させて、宮様大会の決勝当日、午前中に全国から参加する百名を超える身障者ボウラーにより、競技が行われます。

今年度の大会は、昨年十一月二十四日に、品川プリンスホテルボウリングセンターにおいて盛大に実施されました。身障者ボウリング大会には、三十数名のプロボラーの方々ボランティアとして直接指導にあたってくださいました。なお、大会優勝者の成績は、次のとおりでした。

- (一) 第十九回宮様チャリティボウリング大会
 - 男子 小林和行 群馬県 二五八点
 - 女子 東キヨ子 神奈川県 一九八点
- (二) 第五回身障者ボウリング大会（決勝二ゲームの平均点）
 - 男子 保田善三郎 愛知県 一八四点
 - 女子 池田稔子嬢 大阪府 一三二点

次に第三の事業は、「合同運動会の開催」です。

この運動会は、もともと本会の世田谷所在施設の運動会が母体でありましたが、総裁寛仁親王殿下のご意向として、身体の不自由な人も

そうでない人も、若い人もお年寄りも一諸になつて競技を楽しむ運動会にしよう”とのお言葉を、実行に移したのがこの合同運動会です。

毎年十月の第一日曜に、晴雨にかかわらず世田谷区立総合運動場体育館で、参加者全員が一種目以上必ず出場して行われています。

参加団体は、現在本会の三施設を始め、柏朋会、世田谷区身障福祉協会、厚生車輛福祉協会、慶応大学ライチウス会、ガールスカウト東京六一団、ボーイスカウト東京世田谷一〇団、地元商店会、そして世田谷区の後援と参加を得て実施されており、参加者は一様にこの運動会を通じて多くの人々を知り、相互理解を深め、社会連帯の精神を培っております。

昨年の第十二回合同運動会は、十月六日に九団体約八百名の参加を得て、盛況裡に行われました。本会は、これからも身障者の更生援護のための啓蒙普及活動に微力を尽す所存です。そしてこの「ゆうあい」も、そういう意味において、少しでも福祉を理解する一助になれば幸いと考えております。

（常務理事 草原国司）

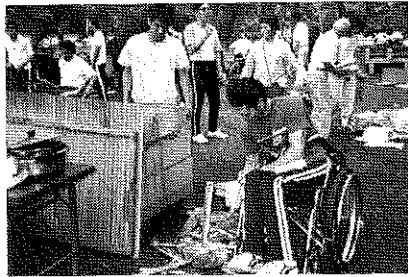


山中湖畔のキャンプ

世田谷更生館

昨年の七月十二日、前年度に引き続き山梨県にある東京YMCA山中湖センターで、世田谷更生館、友愛園の利用者、職員に、利用者の父兄、及びボランティアを加えた総勢一八〇名の参加による、一泊二日のキャンプを行いました。あいにくの梅雨空のため、一部の予定に変更がありました。自炊とキャンプファイアの主要プログラムは順調に消化することができました。同センターは、山中湖の東側湖畔に位置し、白樺や唐松などの樹々に囲まれた素晴らしい自然の中にあります。約六十年の歴史をもち、主に青少年の育成を目的に野外教育活動を実践してきましたが、昭和三十一年頃より障害児のキャンプにも力を注ぎ、昭和五十五年に新館建設された現在、設備面では階段昇降が困難な車椅子利用者のためにステアリフトがあり、施設内のすべての段差を無くすなど、ハンディのある人々に対する細かい配慮がなされています。

このような環境の中でキャンプを実施しましたが、なんと言ってもこのキャンプ中一番の大事事は食事作りでした。参加者は全員十班に分



かれ、御飯、肉野菜炒め、味噌汁、新香、デザートとして西瓜の同一メニューの夕食に挑戦しました。米とき、薪割り、野菜や食器洗い等々、全員が与えられた役割を果たすために一生懸命でした。しばらくすると、あちらこちらのカマドに掛けられた飯盒や鍋から御飯と味噌汁のいい匂いが漂ってきて、食欲をいやが上にもそそります。出来上り時間の多少のずれと、出来具合のよしあしの差はあったものの、約一時間半の悪戦苦闘の末、それぞれの班が独自にこしらえた野外の自然テーブル料理が並びました。慣れない手つきで精一杯頑張った結果が食卓にあります。それを囲むみんなの笑顔がいいようにも光って見え、普段とまた違った旺盛な食欲と共に大変印象深いものでした。その後の片付けがまた非常に厳しいもので、点検があり、飯盒に御飯一粒、煤の一片でも付いていようものなら、遠慮会釈もなく遣り直させられる

のです。これは、センターの基本方針で、食器類だけではなく、使用した部屋、トイレ及び備品等すべてのものを、元通りの状態にして返却し、次に利用する人達が気持ちよく使えるような配慮と物を大切に必要性を教えるためのものなので、みんな必死で洗いました。終わってほっとした顔も清々しく見えました。

最高にロマンティックだったのは、矢張りキャンプファイアでした。夜になって、墨を流したような真暗闇の中、大自然がひっそりと佇むセンター中庭で、しわぶき一つ立てず見守るうちに、点灯されたファイアの炎が夜空を焦がさんばかりに舞い踊り、闇を明るく照らし出すと、誰れからともなく歌が流れてきて、やがて大合唱となった。歌が終って静けさを取り戻した時、詩の朗読が始まった。利用者の作詩を朗読する女子職員の澄んだ声が、参加者一人ひとりの心に優しいしらべとなって溶け込み、様々な形の感動を呼び起こしてゆく。静かな興奮のひとつときでした。

このたびのキャンプの貴重な体験を、今後どのように自分の人生に生かして行くかが、参加者それぞれの課題ではないでしょうか。そして私達もこれからより良い処遇を行うために、ユニークで意義のある課外訓練の実現に取り組んでいきたいと考えています。

利用者のコミュニケーション

東京都ろうあ者更生寮

更生寮での更生訓練は、生活、コミュニケーション、職業の三つを柱にしている。独立し衣食住の日常生活ができるようにする生活訓練、社会生活でかかわる人達とお互に意思疎通を図れるようにするコミュニケーション訓練と、労働のよろこびと経済的安定を図るための職業訓練の三つである。これらは相互に関連するが、中でもコミュニケーションは、生活、職業訓練の重要な鍵になっている。

聴覚障害者のコミュニケーションの方法には、身振り、手振り、ゼスチャー、指文字、手話、筆談、口話等がある。利用者の中には家族、特に母親との日常生活での接触で、自然発生した身振り手振りだけのコミュニケーション手段しか持たない者もいる。わが国のろう教育ではほとんど口話法によって言語の教育を進めているが、ろう学校高等部を卒業した利用者でも、口話をコミュニケーションの手段にできる者はほとんどいない。入所時の語学力テストの結果では、小学校四年生程度の力しかないのが現状である。

人間は言葉を会得し、

その言葉を通して社会的人間として成長し新しい文化を築いていく。

また、人間は「考える」

ことによって発達成長

するといわれる。その「考える」ということは言葉によってである。言語上あるいは聴覚上の障害があるというハンデイのために、言葉に恵まれない利用者に知能、人格の発達に遅れがあることも事実である。情報の収集力の低い利用者は、友人との交流もなくテレビに集中している最近の児童心理の問題とも共通する情緒不安定、受身の行動、自閉的傾向をもっている。

これらの問題解決のために、更生寮における更生訓練の充実と、寮日常生活の中での利用者



相互、職員、ボランティア、地域職域の人達との交流を通して利用者個々がつコミュニケーション方法と内容の拡大に努めていきたい。

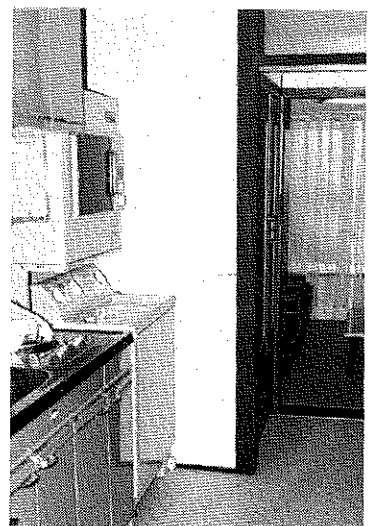
(寮長 山崎輝久)

世田谷区からの委託事業

身障者緊急一時保護所を開設

かねてより地元世田谷区から、身障者の緊急一時保護事業(ショート・ステイ)の受入れについて要請を受けていましたが、このたび地域住民の方に少しでもお役に立つことができるならばということで、世田谷区からこの事業の委託を受けて、法人本部の敷地内にある友愛寮内に、「緊急一時保護所」を開設しました。

対象となる方は、身障手帳を持ち、世田谷区内に住所があり、かつ、日常生活に介護を要する在宅の障害者であって、その介護者が疾病、事故、その他の理由で一時的に介護できない状態になったとき、概ね七日以内に限って受入れることになっています。



クス

詳細については、世田谷区福祉部障害福祉課又は区内の福祉事務所にお問い合わせ下さい。

入所者寸描 Ⅱ ある老人の歩み Ⅱ

友 愛 荘

「先生、今日はありがとうございました」

華道クラブ講師の帰りを折目正しく玄関先で見送る橋本せいさんの姿がある。明治三十四年、台東区下谷生まれ、八十四才。生ッ粋の江戸っ子である。少女の頃の最大の夢は、父親のすすめもあり女学校を卒業してお役所勤めをする事であった。家業が漬物屋でも得意先に英語教師がいて、彼女自身も勉強好き、英語好きだったせいもある。だが、大正四年女学校入学を前に、母親の急死によってその夢ははかなく消え去った。進学が駄目なら、職業婦人として下谷電話局の交換手になろうと決心し、当時の暗着、銘仙の着物と紫色の袴を父に新調してもらい、お



さげ髪で暗れ暗れと出勤した。その後、結婚と育児のため職場を離れたものの最愛の一人息子を二才で亡くしてから再び交換手に復帰

した。以後は、報知新聞社、法務省、日本通運と六十才の定年まで交換業務一筋の人生であった。

「四十五年にわたる仕事を振り返ると、政治、経済活動を始め、人間社会の悲喜こもごものドラマを見てきたように思います。一対の電話ケーブルが果たす役割には大変な威力がありました。職場に馴れ、監督者(主事補といわれた)になると、コード指定番号をいただき(私は三百番)、この番号がかかると一瞬緊張したものでした。当時は今日ほど交通機関も発達しておらず、電話によるラブコールが多かったのではないのでしょうか。電話を通じて、お互いが熟して行く。どうか、お幸せに、と祈ることもしばしばでした」当時の思い出をこう語ってくれた。

「私自身、家庭的には恵まれなかったけれども、今思うと、長い孤独な生活が自分のこうした性格を作り出してしまった様な気がします。しかし、これからも周囲の方達との協調に努めたいと思います。」と笑みを浮かべながら小声で付け加えた。橋本さんは持病の心臓疾患と仲良くしながら、華道、書道、外出訓練などの行事に積極的に参加している日々である。

どうか、何時までも一病息災、お元気で第三の人生をエンジョイしてほしいものである。

(寮母主任 在間光江)

トピッ

地域交流納涼盆踊り大会

賑やかに

友愛荘

友愛荘納涼盆踊り大会は、昨年八月二十日午後二時から実施しました。

従来は、屋内の食堂で行っていましたがたまたま、ガーデン・パラソルの寄贈を受けましたので、今回は緑に囲まれた野外園庭の芝生に場所を変えました。

パラソルのお陰で、緑の園庭は写真のように一段と映え、当荘開園以来という車椅子利用者と、近隣の方々が多数参加して下さいました。

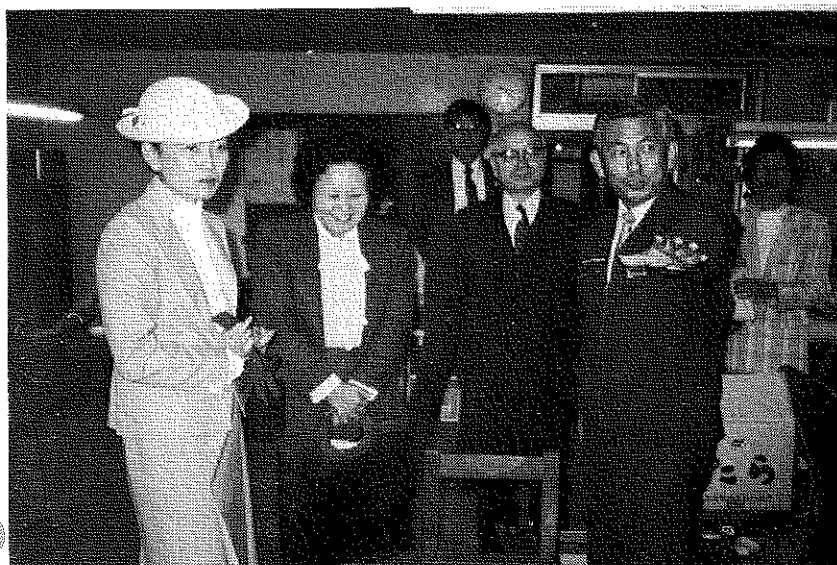
また弥生会、ひまわり会のボランティアの協力で氷、ジュース、ラムネ、焼鳥、おでんなどの模擬店も開かれ、どの店も大繁盛でした。町田市福祉事務所の皆さんを始め、図師老人会の方や近所の子供たちも、町田音頭」の輪に加わるなど、老人たちは楽しい一時を満喫しました。



地域の方々、パラソルをご寄贈下さった本田技研労組の皆様 に心から感謝申し上げます。

友愛十字会の事業にご協力を賜っている
総裁寛仁親王妃信子殿下の
お写真より

● 世田谷更生館を視察
される妃殿下
(60・3・15)



● 合同運動会にて
(60・10・6)



● 宮様チャリティボウリング大会で
優勝者にトロフィーを授与される
妃殿下

(60・11・24)



投稿

リハビリ生活十二年

を振り返って

友愛荘

仲井ユリ（79歳）

私は、昭和四十九年五月に発病（脳血栓による左半身まひ）して以来、狛江の慈恵医大病院で入院を続けておりましたが、リハビリテーションのある所へ移りたいと思い、五十一年三月に湘南の某年金病院へ転院致しました。この病院は三月も末というのに、とても寒い病院で、建物は暗く古いし、それに看護婦さん達は大変事務的でした。身体が不自由なうえ腰も痛むので、レントゲンを撮りましたら老化現象とのことでした。期待していたリハビリは辛く、先生にはしかられるし、訓練は厳しく毎日涙の日が続き、一日も早く他の病院へ移りたくなりました。そのおり、親切な知人が、「仲井さん、あなたの病気は入院しても治らな

い病気ですから、老人ホームに入りなさい。」といわれました。

私は老人ホームとはどんな所か少しも知らないの、一寸不安を感じました。ある日突然、「仲井さんは、町田の友愛荘へ入れることになりましたよ。」と言われ、この病院から出られると思ううれしくなりました。その反面、夜、荷物を片付けながら老人ホームとはどんな所かと、また不安になりました。

夜が明けてから知人の車に乗り、二時間ぐらいい友愛荘の玄関につきました。明るい感じのする建物で、職員の方が車椅子にさせて、三階に連れていって下さいました。六人部屋で、布団も清潔でした。洗濯など全部職員がして下さいました。このことに、またまた喜びでした。病院では自分で洗濯をしていましたが、片手の自分は干すことができず、苦労したものです。

入荘した日の夕食の美味しかったこと、今でも献立を覚えていた位です。一夜明けて何となくあたりの雰囲気は温かく感じられ、これぞ友愛荘の名にふさわしく、久し振りに春風がそよそよと吹いて、

身体の暖まる思いでした。バジャマを下さったり、寒さを感じたらすぐひざ掛けまで買っていただき、

ただただ感激でした。看護婦さんのお話では、ホームは家庭生活の場であるとのこと、入院中は付添をつけ、お金が湯水のように流れ心細くなり、夜も寝れず、自分の過去を反省して、他人様のお世話をしてきた私が、喜ばれこそすれ、別に悪いことや人に迷惑などかけたこともないのに、どうしてこんな不自由な身体になったのかと、一時は死を考えたこともございました。友愛荘も共同生活でございました。照る日もあれば曇る日もございましょうから、人の和による円満な生活と努力が必要かと思えます。テレビを見ていますと、私共老人の悲哀以上に、若い方は生存競争の激しいこの社会で重荷を負い、精一杯生きておられます。老人は愚痴など言うべきではないと思います。

入所してから五年目の五十六年の五月頃には、私も車椅子で食堂に行けるようになりました。私はなるべく歩かねばと思いましたが

一人で歩く自信はなく、転んだら大変なことになると思い、あれこれ悩んだあげく、利用者の一人である渡部美雄さんに、一緒に手をつないで歩いていただきたいとお

願いをしましたところ、心よく承知して下さいました。その時のうれしさはまるで夢をみているようで、それからの毎日は歩けるうれしさに明る日々でした。これも渡部さんあつてのことと感謝しておりました。そうしたある日、看護婦さんから、「渡部美雄さんは、先日定期検査をした結果、体調がよくないのでしばらく治療をします。その間大変でしょうが仲井さんには歩行器を用意しますので頑張して下さいませんか。」と言われました。一生懸命頑張りました。やがて渡部さんも回復され、今は階段を一人で下り、廊下では渡部さんと一緒になって歩ける幸せをつくづく感じております。

子供のない私は、今、日々感謝の気持ちをもって、安心した老後の生活を送っています。

新しいベッドに寝んで

友愛ホーム

関口 浜子 (81歳)

早いもので、私が友愛ホームにお世話になりましたのは昭和五十年の暮れでしたので、あれからもう十年の歳月が過ぎ、年齢も現在八十一歳になりました。

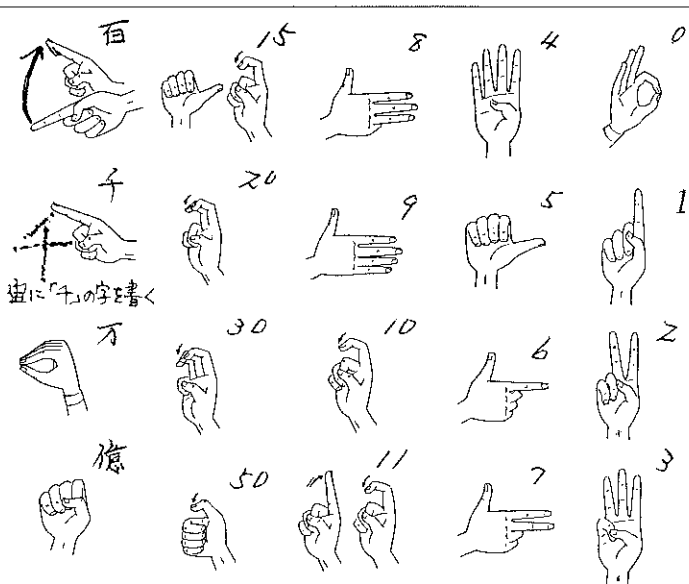
入所した頃は、右ひざの変形で、大蔵病院の整形外科の治療を受けることが多かったのですが、年と共に神経内科、眼科、それに耳鼻科が加わりましたので、大分前からベッド生活をしております。

この春、新しいベッドに変わりましたが、このベッドは畳敷きで、左右に引出しがついております。今までこのようなベッドは始めてだったので、まるで新築の家に住んでいるような気分で、楽しい毎日を送っております。

また、私は頭痛が激しく、アイスノンのお世話になることが多いのですが、お蔭様で頸筋のしこりも柔らかく、楽になりました。これもアイスノンだけに使用する冷凍庫を備えて下さったためと、深く感謝しております。

手話の紹介

今回は、数を表現してみます。数は、正確に伝えることが、とくに大切ですが、はやく表現するより、はつきり、見やすいように。



友愛十字会主要行事

- 60・4・8 お花まつり (友愛ホーム)
- 4・10 合同花見会ー町田愛信園と合同 (友愛荘)
- 14 自治会ハイキング・鎌倉 (ろうあ更生寮)
- 21 四寮対抗ソフトボール大会 (ろうあ更生寮)
- 23 友愛十字会後援会総会

- 5・1 端午の節句 (友愛荘)
- 19 四寮対抗運動会 (ろうあ更生寮)
- 28 昭和六十年第一回役員会
- 6・4 レクリエーション (友愛ホーム)
- 6 第三十五回 東京都身体障害者体育大会 参加 (更生館、友愛園、ろうあ更生寮)
- 7 ハイキング・多摩動物園外 (ろうあ更生寮)
- 11 保健衛生映画 (友愛ホーム)
- 22 社会見学・朝日新聞社外 (ろうあ更生寮)
- 26 映画会 (友愛荘)
- 7・3 七夕まつり (友愛荘)
- 4 都議選不在者投票 (友愛荘)
- 5 生活展 (更生館、友愛園)
- 12・13 山中湖キャンプ (更生館、友愛園)
- 13 盆法要 (友愛ホーム)
- 23・24 納涼盆踊り大会 (世田谷三施設)
- 8・3・4 盆踊り (ろうあ更生寮)
- 4 修了生交流会 (ろうあ更生寮)
- 21 地域交流盆踊り納涼大会 (友愛荘)
- 31 みんなの音楽会 (友愛ホーム)
- 9・1 世田谷区防災避難合同訓練参加 (世田谷三施設)
- 9 昭和六十年第二回役員会
- 15 敬老の集い (友愛荘)
- 20 秋の彼岸法要 (友愛荘)
- 22 第十二回町田市心身障害者スポーツ大会参加 (友愛荘)
- 22 板橋区心身障害者スポーツ大会参加 (ろうあ更生寮)
- 25 映画会 (友愛荘)
- 26 彼岸法要 (友愛ホーム)

●利用者の作品●

(俳句)

友愛ホーム俳句会より

松本千鶴子 選

霜柱くできて急ぐ野中みち 茂

花しどみ草むら深くかくれ咲く

波止の舟繫き合ひをり南風太し

狸藻の花寄せ見れば可憐なる

鼻病みて沈丁の香も戻り来ず

弘児

おちこちの梅さがけて春を告ぐ

藻の花のなびき日は西小舟ゆく

寒菊を楽しむ老の縁日和 琴女

蓐狩り思い出多き旅となり

明易の一村何の音もなし 壮之介

咲き満ちし紅梅野だての席に散る

冬菊を咲かせ楽しむ余生かな

いわの

遠蛙母恋ふむかしよみがえる

野を行きてただひともの梅の花

千代

蛇莓いろ鮮やかに森のみち

善意のかずかず

昭和六十年度上半期に、次の方々から善意の金品のご寄贈を頂き、また、利用者をご慰問下さいました。ここに心から御礼を申し上げます。

(寄付金) 60・4・1 60・9・30

敬称略 あいうえお順

○世田谷関係

新井電気工業所、石井アサ子、石井徳成、石川工芸、理容いしげ石毛政喜、井山建設、井上洋品店、今井勇、伊藤印刷、魚久、魚虎、円光寺内藤寿昭、大野清之助、大蔵湯、大蔵木材工芸、オークラストアー、大蔵東部町会、大蔵住宅自治会、小方つね、越智通雄、小野坂豆腐店、大鐘末吉、笠原六郎、加藤かづゑ、金子秀雄、貝塚富江、砧教会教会学校、北沢福祉事務所、砧商事奈良友雄、砧町町会会長竹内淳夫、砧町自治会、共栄会会長

小室昇太、小池英一、コスモス、小坂徳三郎、光寿会、佐藤孔版社、ささ家、酒井初江、進藤毅、清水英雄、聖文堂、職員有志、世田谷区身体障害者福祉協会、世田谷区身体障害者福祉協会砧支部、世田谷区青色申告会砧支部長下谷秀雄、祖師谷南商店街振興組合、タケミ設備、谷理髪店、リビングタカハシ、太丸屋衣料、千葉了、竹園、津野多、綱島次男、弦巻緑進会代表佐藤睦夫、手島よしの、同栄信用金庫世田谷支店、長島光重、内藤千紗子、日本幼児教育専門学校、沼尻智恵子、沼尻善四郎、花菊、浜中米店、荏原流れ太鼓ひびき会、ひたちや精肉店、普濟寺、富久田

○東京都ろうあ者更生寮

竹川幸、久喜栄一、但木瀧雄、長谷製本所、木川豊、山上源治郎、石沢春吉

○友愛荘

荒木誉達、生田華子、飯野清徳、佐藤タキ、佐藤彰宗、菅野昭正、清栄会代表多田広高、徳山宮子、徳山信博、橋本好朗

(寄付物品)

○世田谷関係

池崎広、神田猛、協和銀行祖師谷支店、キリンビール、こはた敏雄、

コーケン、小山一俊、神宮寿夫、
静岡県茶商工業協同組合連合会、

関塚商店、世田谷区、全国杉の子

会連合会東京地区本部、高松園石

橋誠一、東京健食、同栄信用金庫

世田谷支店、東京食肉環境衛生同

業組合、東京ガス労働組合東京西

支部、日昇産業、日本たばこ産業

武蔵野営業所、原川電気、晴常園

岡本美代五郎、堀晃栄、松下商店、

水野裕子、みやじま、村田永楽園、

ヤクルト小林トミ子、芦花公園ス

ポーツブラザ、若葉会

○東京都ろうあ者更生寮

川西貞一、大沢折本、竹川幸、三

徳志村店、竹川明、清水善次郎、

上村とし子、ライオン株式会社

○友愛荘

キリンビール、小森民人、眞恒、

島田良男、柴田一幹、全日本自動

車産業労働組合連合会、東京都食

肉環境衛生同業組合、日本たばこ

産業八王寺営業所、ニベヤ花王、

本田技研労働組合連合会、宮川登

(慰問奉仕)

○友愛ホーム

蒲田賜恩教会、砧教会、すずめ会、

宮島ほか、若葉会

○友愛荘

櫻美林幼稚園、鎌田義治、小峰服

飾専門学校、相模原芸能舞踊愛好

会、東雲会、町田聖書教会、多々

良武雄、ふるさと渋谷少年社会参

加推進委員会

(招待)

○友愛ホーム

CERAさくら会、東京赤坂組合、

東京都社会福祉協議会、虹の会、

日本篤伝統文化振興財団、原宿ラ

イオンズクラブ、春美光三郎の会

職員異動

60・5・1～60・9・30

世田谷更生館

採用 調理員 伊藤 武 60・8・16

退職 〃 流 君江 60・7・31

友愛園

退職 調理員 齊藤忠行 60・9・4

友愛荘

採用 マッサージ師 榎本誠一 60・5・15

〃 寮母 高橋昭彦 60・6・1

〃 介助員 石川和子 60・8・1

〃 看護婦 赤石沢末子 60・9・1

退職 寮母 福島千代 60・6・30

〃 看護婦 柚木トキ子 60・8・31

編集後記

●昨年の十月一日には、国の最も基本的な統計調査である国勢調査が行われました。調査の対象となる人は、全国で約一億二、二〇〇万人、調査に当つ

た調査員も八〇万人が動員され、山梨県の人口に相当するそうです。

調査票用紙は、約五、〇〇〇万枚で、積み重ねると、その高さは富士山の約二倍になり、総経費は三三三億円で国民一人当たり二七五円掛かるとのことです。調査結果は、国の施策に有効に活用してもらいたいものです。

●「頭の体操」その2

食パンとアンパンとジャムパンが、そろって歩いて行きます。メロンパンが後から声を掛けました。振り返ったのはなにパンでしょう。答は次号で。前号「頭の体操」の答は、しんごうむし(信号無視)でした。(山崎輝久 記)

ゆうあい

昭和六十一年一月十日 発行

発行 社会福祉法人友愛十字会

発行人 草原 国 司

〒157 東京都世田谷区砧

三丁目九番十一号

電話 (〇三) 四一六一三六一